

このころ、マスクを着用し続けている人々をよく見かける。もちろん、インフルエンザの流行やノロウイルスの懸念などがあったが、季節に変わりなく着用している人々があまりにも多いのではなからうか。札幌はいうに及ばず、出張先として訪れていた東京、神戸、大阪、博多でも同様に見ることができた光景であった。

ところが、昨年春、台北に行った際には、マスクをしている人は日本人以外ほとんどいないと感じた。たくさんの人でごった返していたあの九份でさえも、台湾の人のみならず、他国から来たであろう観光客もマスクをしている人はほとんどいなかったと思う。海外特派員が語る報道を見ると、映し出される海外の町並みを通る人々の姿を見ても、光化学スモッグ問題が深刻な北京などの限られた都市を行き交う人々を除き、これほど多くの割合の国民がマスクをする光景は日本くらいではなからうか。私は、台北から札幌に帰ってきた後、マスクを着用している人々の多さを奇異に感じた。

さて、ほとんど一日中、マスクを着用し続けている人々の中に、さまざま

まな心身のな支障を訴えて心療内科などに通院している現象も起きている。彼らのことを「マスク依存症」とも言うそうである。「マスク女子必見！知らないうちになつているマスク依存症の原因と解消法」（二コリー）によれば、①よく鏡で自分を見る傾向があるか、②他人の顔のパーツをよく観察しがちであるか、

③自分の鼻や口、ニキビにコンプレックスを持っているか、④人前でご飯を食べることに苦痛を感じるか、⑤風邪でもないのにマスクを着用することがあるか、⑥お風呂や寝るとき以外はほとんどマスクを着用しているか、⑦スポーツをする時もマスクをしているか、⑧夏でもマスクをする必要があるか、⑨SNSに投稿する写真を納得するまで何回も取り直しているか、⑩マスクをすると安心するか、の10項目中5つ以上の項目に該当した場合はマスク依存症であるとされている。マスク依存症の人はマスクをすることで気持ちを楽しんで不安になる気持ちを抑えたり、自分の感情が表に出ないようにする意識が強いとも言われている。これは、別な言い方をすれば、マ

スクをすることで守られているような感じがして安心でき、自分の感情や気持ちが外から読み取れないようにし、日々の煩わしい人間関係をシャットアウトするという排他的な行動とも評価できるし、その根底には自己肯定感の低さ、自分に対するコンプレックスが見て取れると論じる者もいる。

さて、年始年末が近づき、以前から読もうと思っていた書籍の1つに「ルポ 保健室（秋山千佳著）」というすばらしい本がある。その中で取り上げられている例として、学校の授業などを受けることが難しい状況であつても、「保健室登校」をする生徒の中にもマスク依存症とも言える生徒が多いことが披瀝ひれされている。また、児童虐待を考えても、虐待単体の例はほとんどなく、貧困などの経済問題、家族の社会的な孤立、子どもまたは親の傷害やDVなどが複合的に絡んでいること、そういうさまざまな問題を抱えた生徒が落ち着く場所として保健室登校をしている実例があげられている。1人では乗り越えるのがとても難しい状況の中で、徐々に自信がなくなっていって

自己肯定感が低くなり、顔を晒すことが怖いと感じる生徒の声なき SOS が、マスク依存症とも評価できる生徒の日常的な姿の中に見つけることができるのかもしれない。この「ルポ 保健室」を読んでみて、保健室というものが、現代の子どもたちを取り巻く問題を明瞭に見渡せる場所なんだとつくづく思う。自信のなさをマスクの中に隠し、自分を否定的に考えている生徒が、いわば精神安定剤としてマスクを着用する姿が見て取れたとき、生徒が置かれた根深い状況に最初に手を差し伸べることができると重要な役割を養護教諭はもっていることをつくづく考えることができた。

あくまでも補助的な情報伝達手段に過ぎないメールを通じて、重要なことや誤解が起きないようにすべき重要事項を送信してやる無責任な大人が増えた。スマホの画面を通じて声さえ交わさずに、また、不愉快な思いをさせずにやり取りすることが常識だとはけつして思わないが、もし、その中に、子どもたちが SOS を発しているのであれば、見逃してはならない。

## 律談 62

法相 R 40

### 「マスク依存症」と

### 子どもからの SOS

高橋 司 たかはし・つかさ

弁護士。1963年生まれ。北海道大学大学院法学研究科修了。「高橋日浦法律事務所」代表。